

第1回「次世代育種」促進研究会の概要

1. 日時：平成22年7月5日（月）15:00～17:00

2. 場所：日林協会館 3F 大会議室

3. 議題：(1)「次世代育種」促進研究会の主旨について
(2)精英樹選抜育種に関する現状と課題について

4. 出席者の主な発言内容

- ・育種事業は重要な事業であると認識している。採算が合わないとして造林放棄地が増えている状況であり、第二世代の種苗の成長がさらに加速されるということは非常に喜ばしい。
- ・植林するとき、森林組合に「苗木お願いします」とだけ言って頼んできたが、我々森林所有者はどのような苗木か知らずに受け取っていた。植える者はどのような苗か認識するべきと感じた。我々も勉強不足であると思う。
- ・林家は材質の良いものを育てたいと考えている。育種によって成長と材質の良いものを目指してほしい。
- ・育種苗木等について、苗木生産者にも良く指導していただきたい。育種場と生産者と需要者が連携できるような話し合いが必要である。
- ・第2世代精英樹等の収穫予測表を作ってもらえば効果が見られるのではないか。花粉対策品種やマツノザイセンチュウ抵抗性品種など日本の育種の特徴であるものを大切にしてもらいたい。
- ・海外品種のように成長だけを目指すのではなく、スギにはスギの特徴があるので、多様な用途に対応した育種も大切である。
- ・地球温暖化で威力の大きな台風が多くなるといわれている。強い風に対応できる樹種の開発も期待されている。
- ・次世代の育種はスギとヒノキだけでよいのか。最近海外での早生樹の合板や製材への活用の動きがある。付加価値の高い用途があれば造林経費に見合う材として活用が期待できる。育種は大事であると認識しているので、是非進めていただきたい。
- ・50年にわたって精英樹選抜育種を続けており、ついに重い腰を上げたという感じである。林業や林木育種は暗い時代が続いてきている中であって、第2世代、第3世代の育種について検討されることとなり、光明が開いたという感じがしている。本研究会を応援していきたい。